調査報告

華北農村調査の記録
—2014年8月，山西省L県G村の聞き取り記録—

河野　正
前野清太朗
佐藤　淳平

1．調査概況

本報告は，筆者らを含む科学研究費補助金基盤研究（A）「近現代中国農村における環境ガバナンスと伝統社会に関する史的研究」（研究代表者：内山雅生）の研究グループが山西大学中国社会史研究中心と共同実施した2014年度の聞き取り調査記録の一部である

本研究グループではこれまで，山西省中部に位置するP県D村において継続的に聞き取り調査を行ってきた[1]。本年度も当初はP県D村にて調査を予定していたが，村側の都合により，本年度の調査はできなくなった。そこで本年は省内他地域で広域調査を行い，そのうちL県G村では重点的に調査を行うことができた。本稿はL県G村における聞き取り調査の記録である[2]。

L県は山西省中部，晋中市に位置する県であり，炭鉱が多いことでも有名である。G村は戦時中，隣村であるF村において日本企業が鉱山経営をしており，その労働力資源の関係で北支那開発会社により調査をされた経緯があり，本研究グループも数回の調査をしてきた[3]。またG村とF村の距離は近く，本報告からも分かる通り，G村内にはF村の学校に通った経験を持つ人物が多数いる。G村は現在でも農地が少なく，1人当たりの農地はわずか0.2ムーであり，農外収入に頼る家が多い。F村の炭鉱の関係で，このような農外収入に頼る傾向はある程度の歴史的経緯のあるものと考えられる。農外収入に頼る村の一例として，また北支那開発会社の調査により過去の状況が一定程度理解可能な村として，本村において聞き取りを行い，その成果を発表することには意義があると考えられる。

なお本村ではL姓（本報告の聞き取り対象の2名と同姓）が人口の約9割を占める。また地域の特徴とし，汾河沿いに位置し，汾河の水による灌漑が可能であるため，野菜の栽培などもされている点が挙げられる。

前述の通りG村の概況についてはこれまでにも数度にわたり聞き取りをしてきたが，今年度はP県で調査ができなかった経緯もあり，G村においてグループ分けをし，個人から詳細な聞き取りを行うこととなった。(1) LNJは聞き取りを行うのが初めてであり，まずは個人的背景等について聞き取りを行った。その上で土地改革～農業集団化など中共の諸政策について聞き取った。加えて，聞き取りの中で村内には冠婚葬祭に際して料理を作って人々にふるまう人がいたことが分かり，それらが如何なる人物であったのかを聞いた。ここで触れられた村内の料理人は相対的に豊かな人物であったが，土地改革の際に富農にはされず，村内での人望も維持していた。基層レベルで「階級」が如何なる意味を有していたのかを考える上でも，興味深いものと思われ，更なる調査が待たれる[4]。(2) LZZ氏へは過去にも本研究メンバーが聞き取り調査への協力を依頼しており，3回目にあたる今回の聞き取りでは過去の質問事項の追加確認を軸に質問を行った[5]。前述の通りG村は汾河流域に位置し，以前より灌漑が行われていた。そこで村内の水利に関する事項を中心に，様々な聞き取りを行った。

また同日午後には調査参加者全員により，村の幹部（書記，村長，会計）に対し聞き取りを行い，そちらについても本稿に収録した。村全体の概況について改めて理解する上でも有用である。

今調査に参加したのは日本側が内山雅生，弁納才一，祁建民，田中比呂志，古泉達矢，河野正，佐藤淳平，前野清太朗の8名，山西大学側が毛来霊，常利兵，孫登洲，張泓明の4名である。なおプライバシー保護のため，本稿では人名・地名はアルファベット表記としてある。地名は例えば北京市ならB市，人名は例えば毛沢東ならMZDと表記する。

2. 聞き取り内容

(1) LNJ

2014年8月18日　午前
場所：G村内の小学校
調査者：河野正，常利兵
インフォーマント年齢：81歳　戊年

エゴについて

- 父親の名前はLLS，79歳の時に死んだ。母の名はWGL，T村出身。早くに死んだ。兄は元幹部のLSG。7歳上と2歳上の姉が2人いた。下の姉は早くに死んでいる。妹も2

人いた。

- 土地改革の時に姉妹は既に家を出ており，家にいたのは父，義理の母，兄，エゴの４人であった。
- エゴは高級小学校卒業。3 年通った。G 村の小学校に数ヵ月通った後，隣村である F 村の子弟学校に。その後 Z 村の高級小学校に通った。G 村の学校では日本語を習った。
- G 村の学校には 7〜8 歳の頃に入った。F 村には日本の炭鉱があったため，子弟学校には日本人の生徒が 2 人いた。彼らは兄弟。彼らは年齢が自分とは違うため一緒に遊びはしなかった。
- 学校の卒業後，太原の農業幹部訓練班で掃盲教師をやった。太原で 3 年間。52 年にやめて村に戻った。
- 解放時点で土地は 4〜5 ムー持っていて，農具はなかった。小さなロバは 1 匹持っていた。中農になった。4 人家族で 4〜5 ムーの土地なので生活は辛かった。
- 土地改革の頃に副業はしていなかった。
- 当時，主な作物は小麦，トウモロコシ，粟。
- 中農のため土地に変動はなかった。
- 1953 年に結婚をした。妻の名前は LYX。Q 村の人。Q 村の人が紹介してくれた。Q 村は本村から 7〜8 里離れている。当時，新婚姻法はなかった。
- Q 村は G 村より小さい。G 村にその村の人は少ない。
- 妻は 68 歳で死んだ。11 年ほど前である。
- 子どもは 2 人の娘，1 人の息子。娘はもともと 4 人いたが 2 人は早くに死んだ。息子が 1 人目で，その下に妹が 2 人。
- 息子は村にいる。49 歳巳年。前はタクシー運転手をしていたが，今は何もせず休息している。
- 上の娘は S 村に嫁いだ。S 村はここから 10 里余り。下の妹は F 県へ嫁いだ。ここから 60〜70 里ほど。
- 今までの人生で特別よかった時も特別悪かった時もない。子供も良く会いに来るし，今の生活は満ち足りている。

土地改革・農業集団化について

- 村の解放は 1948 年。同年に土地改革を行った。
- 県から工作隊が来て行った。工作隊は 2 人。HZY と JGY という名前。彼らは良い人たちだった。彼らは土地改革が始まる 1948 年に村に来て，土地改革が終わる 1949 年に村

から出ていった。

- 工作隊はまず村内で政治工作を行った。その後，土地改革を行った。
- エゴは互助組には参加しなかった。

  ※それに対して，互助活動はしたのか，と聞いたところ，行ったが誰としたかは覚えていないと回答。
- 農業生産合作社には参加をした。いつ参加したかは覚えていない。
- 当時合作社は村に 1 社しかなかった。金星合作社といった。400 人余りの社員がいた。村人は皆参加した。参加しない訳にはいなかった。
- 初級社の社長は ZYF。当時 40 歳余り。革命活動に参加したことはなかった。選挙で選ばれた。
- ZYF は本村の人ではなく，X 村の人。X 村はここから 40～50 里離れている。そこには Z 姓の人多い。彼は「継主戸下戸」である。意味は本村の人と結婚して，ここに移住したという意味。
- ZYF 氏は平和的な性格だったため社長に選ばれた。
- （合作社では何をしたのか，という質問に対して）合作社では農業だけを行った。
- 高級合作社化した時期は覚えていないが，高級社に特に名前はなかった。高級社になっても特に変化はなかった。
- 高級社の社長は兄である LGS。
- 初級社は 4 年間やった。その後高級社は 3 年やり，人民公社になった。
- 村に地主はいなかった。富農は 2 戸いた。LYZ，WLS の 2 人。LYZ には子供は 2 人いて，WLS にはいなかった
- 2 戸の富農は土地は 7～8 ムーだけしかなかったが，労働力が無かったために地主にされた。
- 彼らのもともとの生活は可以。
- 彼らとエゴは世代が異なり，遊んだことはない。子供とも遊んだことはない。
- WLS は土地改革で村から逃げ出した。太原で打工をしていた。1950 年に戻ってきて，何年もしないうちに死んだ。60～70 歳頃。
- LYZ は合作社には入らなかった。

  ※（先ほど，村人は全員入ったと言っていたのではないか，と聞いたところ）彼の家は入らなかった，と回答。
- LYZ が入社しなかった理由は，合作社が彼らを必要としなかったから。
- LYZ は高級社にも人民公社にも入らなかった。彼の子どもたちも入らなかった。彼らは

入社しなくても生活面などで特に問題はなかった。

- 村の副業，現在に至るまで特にない。豚を飼う家もない。
- もともと家畜を持っている人は多くなかった。富農は小さなロバを持っていた。豚や牛はいなかった。
- 山羊を飼っている家はいた。40～50 匹近くいた。LZF が飼っていた。LZF は中農，40 歳余りで死んだ。子供はいなかったが養子の LZY はまだ村にいる。
- LZF が家畜が多いのに中農だったのは労働力があるから。人を雇わず全て自分の家でやっていた。彼は真面目な農民だった。
- 1958 年に村に公共食堂ができた。1 年やって公共食堂はやってかれなくなり，無くなった。
- 村で土法高炉をやった後，エゴは県営の D 炭鉱に行って契約労働者として働いた。
- 3 年の困難時期，村では死んだ人はいなかった。浮腫が出た人はいた。家畜が死ぬことあった。

村の料理人について

- LZF は料理をすることができ，村で冠婚葬祭があると彼が料理を作った。
- LZF と村人との関係は良かった。
- LZF の家の山羊は，LZF の弟である LZS が世話をした。
- 現在，村で料理人は WBS，LSM がいる。しかし今は冠婚葬祭があると外から人を雇う。その方が安いため。
- 村内の人が料理を作ると，金は取らずに無料でやるが，知り合いが多く手伝いに来るので煙草を配るなどの事情で却って金がかかる。
- LZF の後に料理人をしたのは LZX。人から推薦された訳ではなく，立候補した。
- LZX は富裕中農だった。生活に余裕があったから料理をした。普段は農業をしていた。人柄は和やかで善良だった。
- 料理に対して金を取ることはなく，「情份」である。
- 彼らは農業集団化時期にも料理を作った。料理を作ることの対価として労働点数をつけることはなかった。

（2）LZZ

2014年8月18日　午前
場所：G村内の小学校教室
調査者：前野清太朗，佐藤淳平
インフォーマントの年齢・干支：83歳　申年

本人の略歴について

- 村の中にあった私塾で勉強したのち小学校に通った。12～13歳のころ，しばらく日本人がつくった学校に通っていたことがある。教師は天津人で日本人教師はいなかったが，日本語を教えていた。学校は以前の鉄道駅の脇にあったが，今は違う建物になってしまった。それから閻錫山軍，ついで八路軍がやってきて，解放後にL第一小学校にいった。小学校を卒業したのち師範学校に行き，教師となってL第一小学校につとめ，P県の小学校に転任し，異動で再びL第一小学校に戻ってきた。35年ばかり勤務して何回か転勤した。退職したのは1992年，60歳のときである。

教師としての経歴について

- 教師の給与は甲乙丙の三等級あったが，初めて教師になったときは乙等だった。1ヶ月の月給が旧幣で23,000元だったが新幣では23元になった。初めにL第一小学校にいた時の月給が17元，P県の小学校での月給は23元，L県に再び異動してきて月給40元になった。
- P県にいた時の小学校はP県城から3kmほど離れていた。小学校の中に1人で住んでいた。野菜を小学校の中の砂地に植えて自分で料理をして食べていた。穀物は1ヶ月で50斤1袋を買ったが食べきれなかった。小学校はマッチ工場の傍らにあり，工場の子弟が通っていた。P県城にはあまり行かなかったが，バレーボールをやるときP高中に行った。1958年に異動でG村に戻った。

本人の家族について

- 父親の名前はLMM。教師をしていた。以前に河南で小売商をしていたが，祖父の目の具合が悪化してG村に戻り，教師となった。母親はG村ではなくS村の人である。兄弟姉妹はいない。
- 父方のイトコも母方のイトコも近い親戚ではない（不親）。私の祖父の兄弟が二人，父は一人息子で，私も一人息子だ。

- 息子が４人，娘が１人いる。娘が59歳，Ｌ県城におり県政府で働いていたが55歳で退職した。長男が55歳，Ｎ鎮で副鎮長をしており，もう退職した。次男は交通事故で10年ほど前に亡くなった。兵士になったあと除隊して臨汾で商売をしていた。三男は46歳，村の上の方に住んでいる。結婚して子供が二人いるが打工をしていて職は固定していない。四男は43歳，Ｌ県城に住んでおり，やはり打工をしている。
- 妻は病気で亡くなって５年になる。友人の紹介で知り合った。
- 孫は合わせて８人いる。娘の子が大連交通大学におり去年卒業した。長男の子も東北部にいる。成都にいる孫もいる。去年，孫を訪ねて瀋陽まで列車で行った。孫たちは旧正月にやってきてくれる。

小さい頃学んだ私塾について

- 教師は村の中から招聘していた。ヤオトンの中に塾があった。三字経・百家姓・論語などを勉強した。先生は科挙の秀才で名前をLSXといった。

Ｇ村の廟について

- 村には１つ大廟があり，劇のための舞台があった。廟があったのは汾水にそそぐ小川のそばである。何を祭る廟だったかは思い出せない。私が９歳のときに壊された。
- 廟会はあったが，この村は交通の便が悪かったので規模は小さかった。小売商がやってきていた。廟会で村民から多少お金を集めていたように思う。

Ｇ村の農業と水利について

- 高粱はさほど植えなかった。主にトウモロコシと小麦を植えた。野菜は小豆・緑豆・大豆，それから野菜はキュウリなども植えた。
- 野菜は自家用だったが，一部分は売った。県城までは行かず，村の付近で押し車を使って売り歩いた。
- 父親は教師をしていたが農地をもっていた。午後に時間があるとき畑に行った。農繁期には人に頼んで手伝ってもらった。土地は6〜7ムーであった。植えていたのは小麦と豆類である。１年に小麦を１期，豆類を１期の２期作った。収穫したあとは自分の家で消費した。生産したものを売買するときは20km離れたＬ県城に行った。牛も１頭飼っていた。

畑の見張りについて

- 畑の見張りは「護灘」といった。村で雇われていた。村には保衛もおり，「護灘」は保衛に属していた。保衛に頼んで農作物を見張ってもらった。「護灘」は畑ごとにいたわけではなく，村全体を行ったり来たりして見張った。
- 外からやってきた者が農作物を盗むことはあったが，本村人で盗む者もやはりいた。
- 「護灘」は土地改革のときにまだいた。生産隊の中にもいた。

G 村の水利と渠長について

- 畑への灌漑水は汾水から水路を掘り畑に送っていた。水路には水門があった。以前は灌漑を取り扱う村幹部がいた。
- 渠長という呼称は聞いたことがある。灌漑のことを取り扱っていた。解放後も何年かまだいた。土地改革の時にはまだいた。
- 渠長は投票で選んだ。村民たちを引き連れて数日かけて溝を掘り灌漑した。渠長は村に 1 人だけであった。渠長は固定しておらず，冬に水路を補修するときに選んだ。渠長をやった人で覚えているのは NLZ・LXH・LTH・LZQ などだ。
- 渠長は灌漑・排水など水利の仕事をするだけで他の仕事はしなかった。廟会の仕事をしたりはしなかった。門銭という呼称は聞いたことがない。

閭長について

- 閭長という呼称は知っている。解放前にいて村の仕事をやった。1 人ではなく何人もいた。LHY がやったのを覚えている。LP もやったことがあった。
- 閭長がいつなくなったかは覚えていない。土地改革のとき閭長はまだいた。いつなくなったかはその頃村の外にいたのでわからない。主任とか村長とか書記とか委員とか名前が変わっていくものだ。G 村に村長がいるようになったのは後からだと思う。
- LP は私より 6〜7 歳年上である。解放前は八路軍におり，解放後に村に戻ってきて閭長と村長とをやった。村長をやっていたのは 3〜4 年だ。LP がいつ党員になったかは覚えていない。LP が死んでもう 10 数年になる。文革のとき LP は村にいて批判された。

文革のころの G 村内

- 紅衛兵も造反派もいた。私のいた学校にもいた。村では武闘はなかった。村の外ではやっていたようだ。2 派に分かれて口先でなにか言うだけだった。

G 村から河南省へ商売に行った者について

- 父親のように河南省に行って商売をする者が本村には多かった。太原に行く者は少なかった。出稼ぎに行く者はさほどいなかった。
- 河南省では開封などに行っていた。しかし河南省で儲けて帰ってくる者は少なかった。

家譜と祖先祭祀について

- 家譜は現在作っていない。以前にもなかった。
- 位牌は家にあった。位牌には大老爺・二老爺・三老爺など祖父たちの名前が書いてある。旧正月の早朝に香をたき叩頭して拝む。それ以外の季節には拝まない。ほとんどどの家も位牌は持っている。祠堂はなかった。家で拝んだ。文革のとき封建迷信ということで焼き払われた。その後改めて作り直した。
- 位牌は「神位」という。「神幟」とはいわない。家の中に掛けるもの（大譜）である。一番上に「老祖宗」が書いてあり，その下に二老爺などが続く。たとえば私が死ぬなどしたら子どもが下に書き足していく。
- 私の家に今あるものの場合，「神位」の一番上が「有」，次が「向」，その次が「英」，その次が父親の代の「銘」，その下が私の世代の「治」だ。私の世代には治中・治学・治有などの名前の同輩がいる。もっとも最近はみだりに名前をつける。
- 「神位」は１つの家庭に１つではない。比較的近い親戚（親的）が１つもっている。もし関係が遠ければ違うものを持つ。

（3）G 村幹部（党支部書記，村長，村会計）

2014 年 8 月 18 日　午後
場所：G 村内の小学校
調査者：科研メンバー全体

午後は G 村の幹部に対し，科研メンバー全体で村の現況に関するグループインタビューを実施した。質問には主に村の党支部書記が回答し，一部を村長（村民委員会主任），村会計（村民委員会の会計）が補った。

G 村の概況

- 3 年 1 回の村民委員会の選挙まであと 2 ヶ月である。選挙が終わった後に各種の開発が始まる予定。村では村の党支部書記が県の人大代表をやっていた。鎮の人大代表が 2 人

おり，いずれも元村幹部である。

- この村の大学生村官は SLH，28 歳女性。村に来て 3～4 年になる。村の党支部のメンバーであり，村の会議にはほとんど参加している。職務は村の清掃衛生などを担当している。一般の村民も彼女のことは知っている。
- 今年の村の支出は 1 万 5,000 元ほど。村では正月に食用油 2.5 kg・米 5 kg・小麦 50 kg，中秋節に小麦 25 kg，端午節にも小麦 25 kg を村民に送っている。
- 村の主な財源は土地使用料である。工場は村に 2 か所あり，そこに村の土地を貸して土地使用料を徴収している。工場は 2002 年にできたもので，村民に村から時節の贈り物をするようになったのは工場ができてからである。
- 以前にあったという村の廟を改修するつもりはない。意味がない。他の村とは違う。

外来戸について

- 本村の住民は戸籍上 500 人だが今は外来戸の方が村民よりも多く住んでいる。向こうの町で打工をする人たちがこちらの村内に住んだり店を開いたりしている。あるいは山の上の村から子どもを G 村に新設された小学校に通わせるために移ってくる。G 村に小学校が新設されて山中の小学校がほとんど統廃合されてしまったためである。本村にいる外来戸は主にこうした人々である。
- 道路沿いの商店はほとんど外来戸がやっている。村民はほとんど商売をしない。
- 改革開放以降，石炭関係の仕事（トラックの運送業，車両修理など）で外来戸が増えた。しかしこの頃は景気が悪く，外部からやってくる人が少なくなった。
- 植樹・緑化を村で現在行っており，村の事務の 1 つである。国土資源局と林業局が衛星で緑化状況を監視しており，責任が追及される場合もある。

G 村の教育状況

- 若い村民たちの教育水準は少なくとも高中になっている。高中卒業後に専門学校に行ったりするが，ほとんどの家庭は大学まで送る。
- 村から子弟に奨学金は出していない。各家庭にはある程度の余裕があるので個人に対する投資はしていない。むしろ電気・浄水装置・学校などの面に投資を行っている。

G 村の農業と土地利用について

- 村に専業農家は少ない。野菜を栽培したとしても自家消費が主である。道沿いの商店で売っている野菜は外から買ってきたものである。最近 3 世帯が羊を飼い始めたが，大き

い所は 80 匹ほど，小さい所でも 50 匹以上飼っている。

- 村の灌漑には地下水ポンプを使用している。ポンプを設置する投資費用は村から出した。村民の水の利用は無料，使用料は徴収しない。電気の使用料も村から支出している。
- 集団化の時期にこの村は野菜生産センターであったが，土地再分配を 1982 年に行って野菜生産センターの土地を分割した。ただし村民への土地再分配後も 2 年ほどは生産・配送を続けた。この村は土地の質があちこち違うため，毎年の土地生産高を平均して各村民に分配した。野菜 20 kg が穀物 1 kg に相当するとして計算し，1 人当たり 70 kg の食糧生産分の土地を分配した。再分配する土地を計算する際，穀物は種類を問わず，大人も子供も同じく 1 人として計算した。娘が村外に嫁いでいたとしても，分配された土地はそのままその家庭のものである。逆に外から女性が嫁いできたとしても改めて土地は分配しない。

おわりに

本聞き取りでは村内複数の人間から，多様な問題について聞き取りを行うことができた。参加したその他メンバーによる聞き取り記録は前掲弁納 2014 の他，各参加者の所属機関紀要などに掲載される予定である。本調査の意義や位置づけについては冒頭でも説明したが，総合的な考察は他の記録が出揃い，科研調査全体の成果をまとめる段階で改めて行われるべきであろう。

本プロジェクトは今年度が最終年度となるが，次年度以降も参加者各人による調査・研究が進められると思われる。更なる成果の発表に努めたい。

注

［1］ 昨年度の筆者による聞き取り記録は「華北農村調査の記録―2013 年 8 月，山西省 P 県 D 村の聞き取り記録―」『東洋文化研究』第 16 号，2014 年，87～109 頁を参照。

［2］ 今年度の調査全体の概要及び P 県 D 村で調査ができなくなった経緯については弁納才一「華北農村訪問調査報告（9）―2014 年 8 月，山西省の農村」『金沢大学経済論集』第 35 巻第 1 号，2014 年 12 月刊行予定を参照。

［3］ 詳細は弁納才一「華北農村訪問調査報告（6）―2011 年 8 月，山西省の農村―」『金沢大学経済論集』第 32 巻第 2 号，2012 年，173～194 頁参照。この他，同村における聞き取りとして弁納才一「華北農村訪問調査報告（8）―2013 年 8 月，山西省の農村―」『金沢大学経済論集』第 34 巻第 1 号，2013 年，217～239 頁がある。以下，本稿で触れる G 村の概況は基本的に弁納 2012 に拠る。

［4］ 農村内における階級の在り方については河野正「華北農村における階級政策と村落社会―1950～1960 年代河北省を中心に―」『現代中国』第 87 号，2013 年 85～96 頁参照。

［5］ LZZ 氏への過去の聞き取りについては前掲弁納 2012，弁納 2013 参照。

（こうの　ただし　　日本学術振興会特別研究員）
（まえの　せいたろう　　東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻博士課程）
（さとう　じゅんぺい　　東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士課程）